

事務事業名		芸術文化鑑賞事業		☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	06 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間		予算科目				
	施策名	30 地域文化の伝承と創造				会計	款	項	目	事業
	基本事業名	02 芸術・文化の振興				01	10	05	03	04
根拠法令										
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 不詳 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入						
	課長名	木川田大典								
	係名	芸術文化係	電話		0192-27-3111					
	担当者	柳本 綾子	内線		272					
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
・市民に芸術・文化の鑑賞機会を提供する事業。主な事業内容は、次のとおりである。 ①芸術文化鑑賞事業の開催、②児童生徒芸術文化鑑賞事業の開催(年に1回、小学生・中学生交互に、市民文化会館で狂言、児童劇などの鑑賞を行う。市芸術文化協会へ補助事業で実施)、③岩手県青少年劇場の開催(日本青少年文化センター、岩手県教育委員会、大船渡市教育委員会での共催事業、市内小中学校年数校で、小中学生を対象に児童劇などを鑑賞する。日本青少年文化センターへの負担金で実施)、④岩手芸術祭巡回小・中学校美術展の開催(入賞入選作品を11月～3月に県内の地区割でパネル展示する)。①については、震災以降は三陸地区公民館の被災により中止。 ・事業費は、市芸術文化協会への開催費補助、青少年劇場開催費負担金等に支出される。						総投入量 (千円)	事業費 内訳	国庫支出金		
								都道府県支出金		
								地方債		
								その他		
								一般財源		
								事業費計(A)	0	
人件費	正規職員従事人数									
	延べ業務時間									
	人件費計(B)	0								
トータルコスト(A)+(B)								0		

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称 単位
支援による演劇鑑賞及びミュージカル鑑賞、岩手県青少年劇場、岩手芸術祭巡回小・中学校美術展の開催	ア 鑑賞事業開催回数 回
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ
児童生徒芸術文化鑑賞事業、岩手県青少年劇場、岩手芸術祭巡回小・中学校美術展の開催	ウ
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)
市内児童生徒、市民	名称 単位
	カ 市内児童生徒数 人
	キ 市内人口 人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	ク
さまざまな優れた芸術文化に触れる。	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)
	名称 単位
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	サ 小中学生向け事業鑑賞者数 人
芸術文化活動を行ってもらう。	シ 一般向け事業鑑賞者数 人
	ス 芸術文化に触れる機会がある市民の割合(市民意識調査) %

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
			単位						
投入量	事業費	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円	0	0	1,035	3,390	3,390	3,390
		一般財源	千 円	0	1,486	1,858	714	714	714
		事業費計 (A)	千 円	0	1,486	2,893	4,104	4,104	4,104
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	時 間	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120
		人件費計 (B)	千 円	4,480	4,480	4,480	4,480	4,480	4,480
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	4,480	5,966	7,373	8,584	8,584	8,584
⑤活動指標		ア	回	1	4	5	5	5	5
		イ							
		ウ							
⑥対象指標		カ	人	3098	2810	1080	3464	3464	3464
		キ	人	39376	39117	38871	38938	38938	38938
		ク							
⑦成果指標		サ	人	747	3811	1498	2030	2030	2030
		シ	人	-	-	-	340	340	340
		ス	%	-	25.1	29.2	40.0	40.0	40.0

事務事業ID	0854	事務事業名	芸術文化鑑賞事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供し、児童生徒、一般市民の豊かな感性を育成するため。開始年度不明。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
・平成13年の三陸町との合併により、対象者数が増えた。 ・実施演目の要望が多様化している。 ・平成20年に市民文化会館が開館し、自主事業などが盛んに実施され、芸術文化の鑑賞機会が増大している。 ・東日本大震災により、事業を実施していた三陸公民館が被災し、事業ができない状況である。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
・鑑賞者が増えるように、興味を持つような事業内容のPRの工夫などに努めて欲しい。(芸術文化協会加盟団体、アンケート) ・市民意識調査では、芸術文化に触れる機会があると答えた市民の割合(そう思う+どちらかというとそう思う/総数(無回答を除く))は29.2%であり、前年度より増加している。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	市民の豊かな感性を育成することは、地域文化の伝承と創造のもととなり、豊かな心を育む人づくりの推進に結びつく。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	本市は、芸術文化活動の中心地域である大都市圏から遠隔地にあり、市民の日常生活のなかで舞台芸術等の鑑賞する機会が限られていることから、市がその機会提供を図る必要がある。	
有効性 評価	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	対象や意図を拡大、縮小する余地はない。	
	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	PR活動により多くの市民の鑑賞を促したり、ニーズに合った実施演目を導入すること等により、成果を向上させる余地がある。	
有効性 評価	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	生の舞台芸術等を鑑賞し豊かな感性を育成できる貴重な機会であることから、事業を廃止した場合は、芸術文化の振興に影響がでる。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	市民文化会館の自主事業に一部統合できる。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	事業費は、事業実施に係る補助金と負担金であり、削減すると事業実施は困難となる。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	事業開催時以外は、1名の職員で事務を行っており、これ以上の削減は難しい。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	優れた演目は公演料が高いことから、それに応じた受益者負担(チケット代金)を求めることも必要である。	

事務事業ID	0854	事務事業名	芸術文化鑑賞事業
--------	------	-------	----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		(2) 全体総括(振り返り、反省点) ・三陸公民館の被災により、一般向けの鑑賞事業は開催できなかった。 ・児童生徒芸術文化鑑賞事業は、今年度文化庁の地域発・文化芸術創造発信事業として開催することで、児童生徒からの負担金を徴収せずに実施し、児童生徒の心の復興を図った。																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☒ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) ・一般向けの鑑賞事業について、施設の被災により三陸地区の開催は難しい状況である。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 ・一般向けの鑑賞事業については、リアスホールの自主事業の実施状況により、今後の方針を検討する必要がある。																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長		(氏 名)
2次評価者	生涯学習課長	木川田大典

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☒ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 適切な事務事業執行がなされている。																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 東日本大震災に伴い、復興支援のもとに各種芸術文化事業が開催されており、当面こうした事業の開催を受け入れを行っていくこととしたい。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
